

部活動などの活躍

《国語分野での受賞》

第10回 荒川区 図書館を使った調べる学習コンクール 奨励賞

〇〇〇さん(2-2)

第10回 荒川区 図書館を使った調べる学習コンクール 佳作

〇〇 〇〇さん(2-2)

〇〇 〇〇くん(2-4)

《美術分野での受賞》

第32回読書感想画中央コンクール 優良賞

〇〇〇 〇〇さん(1-3)

〇〇〇さんは、ゴーストを
読んで一番心を揺さ
ぶられた、無心に
走るシーンを
油絵で描き、
東京都の
優良賞2点の
うちの1点に選ば
れました。

「ゴースト」
ジェイソン・レノルズ著
逃げ足の速さから自分で“ゴースト”
という呼び名をつけた少年が
地元の陸上チームに入り、チーム
メイトたちとの関係を通して、
自分の才能、そして弱さと
向き合っていく物語。



[お詫びと訂正] 1月号の【部活動などの活躍】に誤りがありましたので、お詫び申し上げますとともに、次の通り訂正いたします。(誤)〇〇〇〇さん(2-1)→(正)〇〇〇〇さん(2-4)

南千住マイスターのコーナー

荒川工業高校西側と大手スーパーマーケット脇に、古い「赤レンガ塙」が残っており、区史跡として保存されています。この赤レンガ塙は明治時代から昭和初期に採掘していた「千住製絨所」外回りの塙です。明治維新から約10年、日本の殖産興業、そして国内初の羊毛工業発祥の製絨所跡なのです。この製絨所の初代所長が「井上省三」です。

井上省三は、弘化2年(1845)長州・萩藩出身で、若い頃、山口兵学校で蘭学を学びます。明治になると、木戸孝允(剣豪として名高い桂小五郎)と同一人物に似て、ドイツ語を習得します。その後、兵学を学ぶ目的でドイツに留学しますが、外国の進んだ技術を目の当たりにし、日本を豊かにしたいと殖産興業を志し、ドイツ・ベルリン郊外にあるザガンの毛織物工場に職工として働きます。省三は4年間かけて毛織物技術を修得し帰国します。その頃、内務大臣・大久保利通は、それまで高価な輸入に頼っていた毛織物の生地を国産化し、軍隊の制服も木綿からウールに切り替えたいと考えていました。そのために隅田川沿いのこの地が選ばれました。省三は帰国後、大久保の要請で内務省に出仕し、千住製絨所開業とともに初代所長に就任しました。

この日本で最初の毛織物工場の開業、技術導入、運営などを一手にこなし、それまで輸入に頼っていた羊毛製品、洋服の国産化を実現した省三は「日本毛織物工業の父」と称されています。

千住製絨所は蒸気機関を用いた日本最初の毛織物(ウール)工場で、その技術は一般に公開されました。それがもとで、民間の毛織物会社、板紙会社、ガス会社などが次々に開業し、南千住から日本の近代工業が発展していったのです。

明治16年(1883)12月29日、製絨所の工場から出火、操業が出来なくなってしまう。省三は復興のために奔走し、工場を建て直します。しかしその心労から、明治19(1886)年、静養中の熱海で肺結核のため逝去しました。42歳という若さでした。その後、製絨所は昭和20年まで操業し、終戦後は大和毛織がその操業を受け継ぎ、昭和35年までつづきます。

省三の偉業を讃え、荒川スポーツセンター脇に、井上省三君碑と胸像、そして日本羊毛工業発祥の地の碑が建てられています。

南千住と歴史上の人物 その⑧
『井上省三』と千住製絨所

荒川工業高校西側と大手スーパーマーケット脇に、古い「赤レンガ塙」が残っており、区史跡として保存されています。この赤レンガ塙は明治時代から昭和初期に採掘していた「千住製絨所」外回りの塙です。明治維新から約10年、日本の殖産興業、そして国内初の羊毛工業発祥の製絨所跡なのです。この製絨所の初代所長が「井上省三」です。

井上省三は、弘化2年(1845)長州・萩藩出身で、若い頃、山口兵学校で蘭学を学びます。明治になると、木戸孝允(剣豪として名高い桂小五郎)と同一人物に似て、ドイツ語を習得します。その後、兵学を学ぶ目的でドイツに留学しますが、外国の進んだ技術を目の当たりにし、日本を豊かにしたいと殖産興業を志し、ドイツ・ベルリン郊外にあるザガンの毛織物工場に職工として働きます。省三は4年間かけて毛織物技術を修得し帰国します。その頃、内務大臣・大久保利通は、それまで高価な輸入に頼っていた毛織物の生地を国産化し、軍隊の制服も木綿からウールに切り替えたいと考えていました。そのために隅田川沿いのこの地が選ばれました。省三は帰国後、大久保の要請で内務省に出仕し、千住製絨所開業とともに初代所長に就任しました。

この日本で最初の毛織物工場の開業、技術導入、運営などを一手にこなし、それまで輸入に頼っていた羊毛製品、洋服の国産化を実現した省三は「日本毛織物工業の父」と称されています。

千住製絨所は蒸気機関を用いた日本最初の毛織物(ウール)工場で、その技術は一般に公開されました。それがもとで、民間の毛織物会社、板紙会社、ガス会社などが次々に開業し、南千住から日本の近代工業が発展していったのです。

明治16年(1883)12月29日、製絨所の工場から出火、操業が出来なくなってしまう。省三は復興のために奔走し、工場を建て直します。しかしその心労から、明治19(1886)年、静養中の熱海で肺結核のため逝去しました。42歳という若さでした。その後、製絨所は昭和20年まで操業し、終戦後は大和毛織がその操業を受け継ぎ、昭和35年までつづきます。

省三の偉業を讃え、荒川スポーツセンター脇に、井上省三君碑と胸像、そして日本羊毛工業発祥の地の碑が建てられています。

荒川工業高校西側と大手スーパーマーケット脇に、古い「赤レンガ塙」が残っており、区史跡として保存されています。この赤レンガ塙は明治時代から昭和初期に採掘していた「千住製絨所」外回りの塙です。明治維新から約10年、日本の殖産興業、そして国内初の羊毛工業発祥の製絨所跡なのです。この製絨所の初代所長が「井上省三」です。

井上省三は、弘化2年(1845)長州・萩藩出身で、若い頃、山口兵学校で蘭学を学びます。明治になると、木戸孝允(剣豪として名高い桂小五郎)と同一人物に似て、ドイツ語を習得します。その後、兵学を学ぶ目的でドイツに留学しますが、外国の進んだ技術を目の当たりにし、日本を豊かにしたいと殖産興業を志し、ドイツ・ベルリン郊外にあるザガンの毛織物工場に職工として働きます。省三は4年間かけて毛織物技術を修得し帰国します。その頃、内務大臣・大久保利通は、それまで高価な輸入に頼っていた毛織物の生地を国産化し、軍隊の制服も木綿からウールに切り替えたいと考えていました。そのために隅田川沿いのこの地が選ばれました。省三は帰国後、大久保の要請で内務省に出仕し、千住製絨所開業とともに初代所長に就任しました。

この日本で最初の毛織物工場の開業、技術導入、運営などを一手にこなし、それまで輸入に頼っていた羊毛製品、洋服の国産化を実現した省三は「日本毛織物工業の父」と称されています。

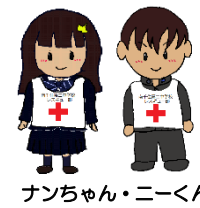
千住製絨所は蒸気機関を用いた日本最初の毛織物(ウール)工場で、その技術は一般に公開されました。それがもとで、民間の毛織物会社、板紙会社、ガス会社などが次々に開業し、南千住から日本の近代工業が発展していったのです。

明治16年(1883)12月29日、製絨所の工場から出火、操業が出来なくなってしまう。省三は復興のために奔走し、工場を建て直します。しかしその心労から、明治19(1886)年、静養中の熱海で肺結核のため逝去しました。42歳という若さでした。その後、製絨所は昭和20年まで操業し、終戦後は大和毛織がその操業を受け継ぎ、昭和35年までつづきます。

省三の偉業を讃え、荒川スポーツセンター脇に、井上省三君碑と胸像、そして日本羊毛工業発祥の地の碑が建てられています。



学校だより
令和三年2月
第113号
荒川区立南千住第二中学校



日本っていいな 😊

校長 松田 公好

私は最近、日本の良さを知ることを心掛けています。自分が所属する大きな集団である日本という国の良さを知ることは、そこで生活するうえでとても大切なことのように思うからです。仕事から特に学校教育に関する情報には興味を惹かれます。他国の方から見た日本の学校教育で注目されるものの中に「清掃活動」と「学校給食」があります。

日本では東京のような大都市でも、ゴミが落ちていて汚いと感じることがほとんどなくきれいに保たれていることに驚く外国の方は少なくないようです。このことは日本人のほとんどが小中学校で日常的に指導を受けて清掃活動を行ってきたことが大きく影響していると言われています。確かに私たちは自分たちが使う(使った)場所をきれいにすることは当たり前のように感じています。このことが顕著に表れたのが2018年にロシアで開催されたサッカーワールドカップでの日本のサポーターや選手の行動でした。悔しい逆転負けを喫したにもかかわらず、サポーターは会場のごみを片付け、選手は控室をきれいに整頓しました。これが世界中から賞賛されたことはよく知られています。

- また、日本の小中学校を視察に来られた外国の方の多くが、学校の給食を試食して驚き、給食が作られる過程を知ってさらに驚かれます。驚嘆される内容は以下のようものです。
- 栄養面のバランスがとれたメニュー
 - メニューの豊富さ
 - 味の良さ
 - 安全性(衛生面の気配り)
 - 手間を惜しまない調理



南二中では食育の一環として「給食ができるまで」と題した動画を作成し、生徒に本校の学校給食がどのように作られているかを伝える取り組みを行いました。そしてこれを受けて学年朝礼では、校長の話として『学校給食』を取り上げ、日本の学校給食制度が海外から注目されていること、そして南二中の栄養士さんや調理員さんが毎日気持ちを込めて作業してくれていることを伝え、感謝の気持ちをもつことを呼びかけました。

今年度はコロナ対策のため『給食試食会』が実施できませんでしたので、「給食ができるまで」の動画については保護者の皆様にもぜひご覧いただきたいと思います。右のQRコードを読み取って視聴してみてください。栄養士さんや調理員さんが、安全で美味しい給食を提供しようと日々頑張っていることが分かって安心していただけたと思います。



給食ができるまで

もしかすると学校給食をとおした食育は日本を長寿大国にしてくれた一因かもしれません。清掃も給食も決して侮れない教育活動であると改めて感じます。

1年生街の先生教室

1年生・2年生 南千住検定

2月5日(金)の午後、1年生が職業人のお話を聞く「街の先生教室」が開催されました。この日の講師は、カメラマンの吉田 拓夫さん、警察官の神山 貴一さん、アスレチックトレーナーの鈴木 秀明さん、旅行代理店の添乗員の河合 美希さん、ライターの佐々木 一成さん、ニッポン放送でラジオ制作に携わる金澤 元洋さん、東京消防庁臨港消防署の消防士の神田 博文さんの7業種7人の皆さんです。開会式は感染症拡大防止のためzoomを使って各教室にライブ配信されました。〇〇〇くん(5組)が司会を行い、校長先生の挨拶、講師の皆さんのご紹介につき、1学年を代表して〇〇〇〇さん(5組)が「今日のこの時間を大切に過ごし、自分たちの未来へとつなげましょう」と挨拶をしました。

2回行われた分科会では、希望する2業種の方からお話を聞くことができました。カメラマンの吉田さんは、学校行事の撮影などで使用する望遠レンズ付きのカメラを貸していただき、生徒たちは友だちの顔や遠くの景色が大きくはっきりと写る様子に歓声をあげて喜び、少しの時間ですがカメラマン体験ができました。警察官の神山さんは、事件の発生から捜査、犯人の特定、検挙までをドラマ仕立ての映像で見せていただき、臨場感あふれる捜査現場のようすを皆身を乗り出すように真剣な表情で鑑賞しました。添乗員の河合さんは、自分が行った修学旅行が楽しくて、将来の仕事として添乗員を目指したとのこと。旅行の計画や手配から添乗での安全配慮など細やかな気遣いが求められますが、皆の笑顔や楽しかったという感想を聞くのがやりがいと話してくださいました。まさに社会の第一線で活躍されている方々のお話からは、仕事の意義・やりがい、そして働くことの苦労や楽しさも伝わってきました。各分科会の最後には、生徒の皆さんからの質問も続き、講師の皆さんは、ひとつひとつに丁寧に答えてくださいました。

閉会式は〇〇〇〇さん(3組)の司会でアリーナで行われ、1学年を代表して、〇〇〇〇さん(1組)が、「今日学んだことをこれからの進路や受験に役立てていきたい」という言葉とともに謝辞を述べました。

お忙しい中、ご講話をいただきました講師の皆さま、ありがとうございました。



カメラマン 吉田拓夫さん



警察官 神山貴一さん

トレーナー 鈴木秀明さん



添乗員 河合美希さん



ライター 佐々木一成さん



ラジオ制作 金澤元洋さん



消防士 神田博文さん

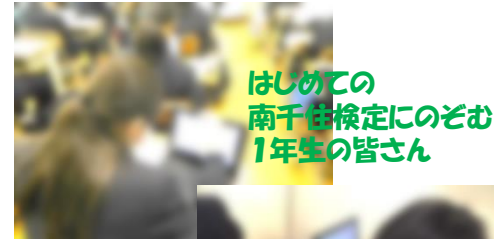
分科会のようす

南千住第二中では、地域学習の成果のひとつとして、毎年、南千住地域の史跡、寺社、歴史、祭事などを学び、その知識を競う「南千住検定」を行っています。今年度は休校の影響により、当初計画されていた検定日が延期となり、1・2年生のみで2月10日(水)6校時に実施されました。検定までの数日間、朝学習や総合の時間などを利用して、齊藤進前校長先生が南千住の歴史や文化について著述・編集された「歩いて学ぼう! 南千住検定」という検定本を使ってこれまでの過去問などを解いたり、タブレットを使って解答をクリックすると正解か間違いかが即座にわかるクイズ形式の練習問題などに皆たいへん意欲的に取り組みました。

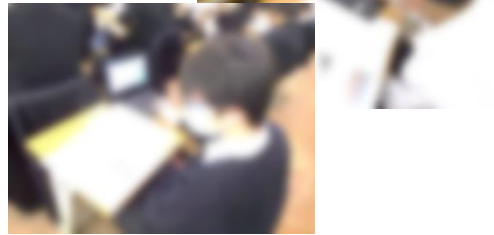
これまではマークシートで行っていた解答も、今回からGoogleHomeアプリを使った新しい試みが入り入れられ、タブレットの解答用紙の選択肢から正解をクリックしていく形式になりました。日頃から授業などでタブレットを使う機会も多く、ほぼ全員が時間内に正確に検定試験を行うことができました。その日のうちに集計された結果では、全校の平均は60.7点にのぼり、マイスター(98点以上)、1級(90点以上)、2級(80点以上)、3級(70点以上)の級取得者も1・2年生全生徒の1/3以上を占める好成績をおさめました。マイスター取得者には、南千住を代表する工芸品のひとつの七宝焼きでつくられた特製バッジが贈られます。南千住検定の結果は、月曜日の学年朝礼で発表されますので、楽しみに待ちましょう。

南千住検定は、自分が暮らす地域に興味を持ち、歴史や文化を学ぶ機会となって、南千住の街をさらに好きになり、誇りに思う生徒たちに育つことを目指しています。

「南千住の歴史を語る南二中学生」を目指して、これからも地域学習に取り組みましょう。



はじめての南千住検定にのぞむ1年生の皆さん



1年生



2年生



2年生

1年生の広告ポスター展開催

国語の授業で、1班3・4人のグループに分かれ、将来こんな製品があったらいいな!と思う製品を考えました。その数は38個に上り、皆で話し合い、販売価格を決めて、夢の商品を売り出すための広告ポスターを作成。どれも創造的で、商品をアピールする工夫に溢れたものばかり。現在、4階ホールに展示されています。

